国立美術館のクラウドファンディング　第3弾プロジェクト

上：（左から）インタビュアー澤井信一郎、マキノ雅裕
右：（左から）インタビュアー大島渚、黒澤明

国立映画アーカイブ　磁気テープの映画遺産を救え！
『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト

期間：2021年12月1日（水）～2022年3月31日（木）　目標金額：5,000,000円
協力：日本映画監督協会

なぜ磁気テープの映画遺産をクラウドファンディングで救わなければならないのでしょうか？

1980年代から家庭や学校、職場に広く普及した磁気テープのビデオは、映画をはじめ、メディアアートやインタビュー、ホームムービーなど、私たちの貴重な記録や表現を支えてきました。そのビデオ映像は、2025年までにデジタルファイル化されなければ、永遠に失われかねない――という警告*をユネスコが発しています。

国立映画アーカイブでは、日本映画史上、唯一無二の“映画監督による映画監督のインタビュー映画”シリーズ『わが映画人生』（日本映画監督協会製作）を救うべく、初の磁気テープコレクションとして受け入れ、この映画を後世まで確実に伝えられるよう、国立美術館のクラウドファンディングを通して一刻も早いデジタルファイル化の完遂を目指します。本プロジェクトでは、『わが映画人生』の現存するすべてのビデオテープ完成原版のデジタルファイル化を実施し、より多くの方に映画への理解を深めていただけるよう、本作の上映会や、図書館等で閲覧可能なDVDの作成・提供などを予定しています。この貴重な映画遺産の救出活動に、皆様のご参加・ご支援をいただけましたら幸いです。

*「マグネティック・テープ・アラート」：再生機の保守サービスの完全終了（2023年3月）、技術者の減少、キャリアの経年劣化などから、世界中でテープの再生ができなくなるという警告。

『わが映画人生』とは

日本映画監督協会50周年を機に、「先輩監督の貴重な証言をビデオテープにおさめ、監督協会に永久保存する」企画を立て、第一線の監督たちが自らの手で製作を開始した作品です。1988年から2020年2月末までに173篇が製作され、そのうちの7割近くが撮影から完成原版までビデオテープで作られました（残りは近年のデータファイル形式による製作）。日本映画史、産業史、オーラル・ヒストリーとしても貴重なビデオテープ原版で唯一無二の映画遺産です。

「日本映画監督協会創立の集い」記念写真（1936年）

［ 問合せ先 ］
国立美術館　本部事務局　クラウドファンディング担当
電話：03-3214-2619（担当直通）
E-mail：kifu@momat.go.jp

『わが映画人生』デジタルファイル化対象作品

監督×インタビュアー（原版テープ）

＊完成原版ビデオテープ約110篇のデジタルファイル化を予定しています。以下はその一部で、テープの種類、各篇の分数(40分～230分)も多岐にわたっています[2021年11月30日時点]。人名表記は、日本映画監督協会の資料に準じています。

1988年
松田定次×沢島忠（Digital βCAM）
マキノ雅裕×澤井信一郎（Digital βCAM、D2L）

1989年
佐々木康×深作欣二・高峰三枝子（Digital βCAM）
大庭秀雄×大島渚（D2M）
吉村公三郎×柿田清二（D2M）

1990年
本多猪四郎×坂野義光（Digital βCAM）
佐伯清×伊藤俊也（Digital βCAM）
杉江敏男×野長瀬三摩地（βCAM-SP）
並木鏡太郎×山際永三（Digital βCAM）
谷口千吉×岡本喜八（Digital βCAM）

1992年
堀川弘通×浅尾政行（Digital βCAM）
犬塚稔×鈴木清順（Digital βCAM）

1993年
黒澤明×大島渚（Digital βCAM、D2L）
西河克己×千野皓司（Digital βCAM）
小林正樹×篠田正浩（D2L）

1995年
松林宗恵×瀬川昌治（Digital βCAM）

1996年
山村聰×斎藤武市（Digital βCAM）

1997年
野村芳太郎×山田洋次・川又昂（D2M）

1998年
今井正×橋祐典（Digital βCAM）
新藤兼人×神山征二郎（Digital βCAM、D2M）
岡本喜八×恩地日出夫（Digital βCAM）

1999年
市川崑×森遊机（Digital βCAM）
井上梅次×舛田利雄（Digital βCAM）
今村昌平×武重邦夫・紅谷愃一（D2M）

2000年
田中徳三×土井茂（D2M）

2001年
舛田利雄×江崎実生（Digital βCAM）

2003年
西村昭五郎×小原宏裕（DVCAM）

2004年
山田洋次×宮崎晃・仲倉重郎・阿部勉（DVCAM）
瀬川昌治×井坂聡・かとうじん（D2M）

2006年
山際永三×高原秀和（DVCAM）

2007年
藤原智子×渋谷昶子（DVCAM）

2008年
恩地日出夫×安藤紘平（DVCAM）
斎藤武市×白鳥あかね・渋谷昶子（DVCAM）
鈴木清順×武田一成・葛生雅美（DVCAM）
澤島忠×松田寛夫・河治和香（DVCAM）

2009年
篠田正浩×小栗康平（miniDV）
池広一夫×佐藤重直（miniDV）

2010年
佐藤純彌×梶間俊一（DVCAM）

2011年
降旗康男×梶間俊一（HDV）

（左から）沢島忠、松田定次

『わが映画人生』について（「日本映画監督協会創立60周年記念フェスティバル　わが映画人生」より）

大島渚

「戦争が始まろうとする前夜においてあえて監督協会をつくり、自由で豊かな表現を貫こうとした大先輩の勇気と決意を再び思い起こし、それを受け継いで行きたい」

恩地日出夫

「映画好きの人たちに、作品だけでなく、映画監督の人間の一部にもふれてもらって、新しく映画の魅力を発見してもらえれば、こんなうれしいことはない」

支援コース＆記念品

＊交通費はご本人のご負担となります。

記念品 ＼ 支援コース（限定枠）	3,000円	5,000円	10,000円	30,000円	50,000円（50名様）	100,000円（20名様）	300,000円（10名様）	500,000円（5名様）	1,000,000円（2名様）
プロジェクト記念リーフレット	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウドファンディングサイト、記念リーフレット、国立映画アーカイブに設置されるパネルにお名前を掲示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
『わが映画人生』デジタルファイル化版エンドロールにお名前を掲示			○	○	○	○	○	○	○
国立映画アーカイブ2022年度企画展招待券	各2枚	各4枚							
国立映画アーカイブ展示室年間パス			1枚	2枚	3枚	4枚	3年パス 1枚	3年パス 2枚	5年パス 2枚
国立映画アーカイブオリジナルグッズ		○	○	○	○	○	○	○	○
プロジェクトオリジナルトートバッグ（非売品）				○	○	○	○	○	○
日本映画監督協会提供 理事長 崔洋一監督サイン本『日本映画監督協会の五〇年』				○ 先着100名様					
『わが映画人生』特別試写会（2022年7月24日＠国立映画アーカイブ小ホール）参加券＋“見たい一篇”投票権 ＊日本映画監督協会の挨拶あり					○	○ 1名同伴	○ 2名同伴	○ 3名同伴	○ 4名同伴
二篇選べる『わが映画人生』プライベート試写会（＠国立映画アーカイブ小ホール）								○ 5名同伴	○ 10名同伴
国立映画アーカイブバックヤードツアー（京橋本館 or 相模原分館）							○	○ 1名同伴	○ 1名同伴
35mm映写体験＠国立映画アーカイブ									○

国立美術館のクラウドファンディングサイト　https://crowdfunding.artmuseums.go.jp/

独立行政法人国立美術館へのご支援に対しては、税制上の優遇措置がございます。
デジタルファイル化対象作品など、詳細は本クラウドファンディングのサイトをご覧ください。

ご支援方法
国立美術館のクラウドファンディングサイトからクレジットカードで、または郵便局・ゆうちょ銀行の窓口・ATMでご支援金のお振込ができます。
専用の払込用紙をご希望の方は、クラウドファンディング担当までご連絡ください。